

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570813519		
法人名	株式会社 えがお		
事業所名	グループホーム杉矢崎		
所在地	大仙市大曲西根字杉矢崎12-6		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成27年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・年2回地域向けの広報紙の発行、地域の保育園・小学校・中学校・養護学校生徒のボランティアの受け入れ、防災訓練への地域の方の参加、子ども110番の家、子ども見守り隊等地域貢献しながら交流を深める活動を行なっている。 ・利用者様の希望や立場に立って、季節に応じた外出の機会を作っている。また、敷地内の花壇や畑で、なじみの活動を継続している。 ・職員のスキルアップのため、年間研修計画を立て社内外の研修に参加している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人内の管理者会議や主任会議でそれぞれの立場で意見交換する機会を設け、法人全体でサービスの質の向上に向けた取り組みをされています。職員は利用者や談笑中或いは、対面式のキッチンに立ちながらも常に利用者全員に目を配って見守りされており、利用者の状況に合わせた素早くさりげない介助の様子にチームワークの良さが感じられます。利用者の日常の様子を多くの写真に残しており、家族の面会の際には言葉で説明する以上に伝わるものがあり、会話も広がり、アセスメントにも活かされています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに全職員対象の社内研修があり、理念の再確認を行なっている。事業所にも掲示意識できるようにしている。	法人全体の理念が「地域と共に」であり、地域との関わりを持ってホームを知っていただき、地域の方々との交流に熱心に取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方に緊急時の連絡先に加わっていただいている。事業所の防災訓練には、地域の方にも参加していただいている。また、訓練終了後には交流会を開催し、楽しみながら交流を深めている。子ども見守り隊に加入している。	保育園児、小中学生とは代々交流が続き、養護学校の生徒は庭造り等の環境整備をしてくれています。運営推進会議や行事の他、折々に力になってくれる方が多く、ホームでも地域活動に積極的に関わりが持てるように努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症なんでも相談所」を開設し、地域で認知症介護で困っている方がいる時は、気軽に相談していただけるよう伝えている。地域との交流会で認知症早期発見のタッチパネルを設置し、身近な問題として提案している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告や生活の様子を報告するだけでなく貴重な意見をいただける場と捉え、全職員にも周知するようにし、サービス向上に活かす努力をしている。	会議での意見や情報提供を職員にも伝え、サービスの向上に具体的に活かせるよう話し合われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険事務所や福祉事務所などとは連絡がとれている。また地域包括支援センターもケアマネージャー対象の研修の案内などで来訪してくれる。	交流会を通じて支援、協力していただいて地域の方と交流されており、積極的に連携されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や事業所内研修にて身体拘束廃止の研修を全職員が行い、意識の向上に努めている。日中は玄関に鍵をかけず自由に出入りできるようにしている。	法人のガイドラインを定め、研修及び実践を通じて拘束の弊害を理解して対応されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年1回は社内研修や事業所内研修にて虐待防止の研修を全職員が行い、職員の言動や利用者さんの表情や言動からも虐待が行われていないか確認をしている。また日頃のケアについて話し合い事業所内での防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が権利擁護について定期的に学び、意識統一をはかっている。また、成年後見制度の利用が必要な方がいないか確認し、必要な人には支援ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭のみではなく文書でも十分に説明を行い、不安や疑問については納得いただけるように説明する努力をしている。ご本人に対しては理解力の問題から困惑しないようにわかりやすい言葉で説明する努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を玄関先に設置し、面会来訪等に気付いたことや要望等を遠慮なく言ってもらえるようにしている。また、ご家族様からのお話は記録に残し全職員が共有できるように努めている。苦情=要望・意見と捉え改善を図る体制にしている。それらがあつた場合は運営推進会議で報告し、共に考える機会としている。	家族とは日頃からコミュニケーションを図り、面会時には利用者の日常を写した写真を見ながら意見が引き出せるように努力されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週管理会議、毎月の主任会議やスタッフカンファレンスなどで意見や提案を聴く機会を設けている。	法人会議でそれぞれの立場での意見を聞く機会が設けられている他、ホームでもケアについてだけでなく、環境整備についても話し合わせ職員意見が反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って取り組めるよう必要な研修への参加を行っている。月2回の社内研修で学ぶ環境作りや面接を通して本人の目標が達成できるようアドバイスしている。また、残業なし・有給休暇の取得など働きやすい職場環境を整えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は教育委員会を組織し、年間計画に基づき毎月開催している。また、外部からも専門的分野の講師や大学教授等招き開催している。外部研修は職員の能力や希望に応じて参加している。また法人内で実践報告会を行い質の向上を目指した取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大曲仙北地域密着型介護事業者連絡会に入会し、同業者との交流や情報交換、勉強会等を行っている。また、日本認知症グループホーム協会に加入しグループホーム大会で事例発表を行い全国の取り組み事例を収集して、常に全職員が積極的な関わりをしていけるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込み後にはご本人と面談し、話しやすい雰囲気を作りながら、ご家族様からの情報と合わせて、望む生活の聴取をしている。また勤務ごとに自己紹介などをしたり、担当職員が比較的多く関わられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの間に何度か希望を伺ったり見学の機会を設けて具体的に生活をイメージしていただき、話し合いを重ね信頼関係を築く努力をしている。宿泊初日は電話でその日の様子を簡単に伝えたり、受診前後の状態や結果を速やかに伝えるなどこまめに報告している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が、昔ながらのおやつや料理を教えてもらったり、一緒に過ごしていく中で、支えあい、喜怒哀楽を共有できる関係が築けるよう日々取り組んでいる。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には敬老会などの行事に参加していただいたり、負担にならない程度の関りが継続できるよう外出・面会・電話などの際に援助を行っている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の意見も伺いながら、ご本人の馴染みの人や馴染みの場所の関わりを希望される場合は関係が途切れないよう、支援する努力をしている。	毎週面会に来てくれる家族とは他の利用者とも馴染みになっており、保育園のころから訪れている小中学生とも馴染みの関係となっています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性のよい利用者様同士と一緒に過ごせるような環境作りをしている。相互の助け合いの場面を見る事もあるが、良好な関係が保てるように職員が声かけや見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居してからも電話で近況報告を受けたり、介護相談にもものっており、安心して生活ができるように関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の様子や会話、ご家族様からの情報などから希望、意向の把握に努めている。また、コミュニケーションが難しい方は状態に配慮しご家族様の意見も交え意向の把握に努めている。	利用者の状況を把握した上で二人きりの時の話や日常で気付いたことを記録に残し、情報を共有しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族様から出来るだけ詳しく伺い、経過の把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の生活記録の他にセンター方式を活用して、できること・できないことやわかること・わからないことを把握したり、排泄状況、食事摂取状況等の記録をしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様とは相談しながら作成している。ご本人からは日常的に生活する中で求めていることを引き出し、その思いに添えるよう職員の意見も取り入れ作成している。	モニタリングは担当職員が行い、サービス担当者会議で他の職員の意見を聞きながら現状に即した介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や管理日誌に日々の様子やケアの実践を記入している。申し送りや記録、モニタリング、サービス担当者会議で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園・学校行事には積極的に協力、参加している。また、消防署からは防災訓練などで定期的に指導助言いただいている。JA婦人部会長には運営推進会議委員として地域の情報を教えていただいている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局を利用し適切な医療を受けられるよう支援している。またかかりつけ医の訪問診療の際は薬局の方も一緒にご本人と接しアドバイスをいただいている。	協力医療機関と連携し、希望に応じた受診や訪問診療が行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に非常勤看護師を配置しており24時間連絡できる体制を確保している。週1回来訪あり、健康管理や医療チェックの支援を行っている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と連携を図っている。入院した場合は退院に向けた調整や必要な援助について病院関係者と情報交換を行い、ご本人を援助できるようにしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の「重度化した場合における対応に関する指針」に基づき、ご本人やご家族の希望や意見を尊重しながら、医師・看護師・職員で連携して支援するように努めている。事業所でできる限界についても説明し、必要な場合は医師の判断によって入院等の援助を行っている。	これまで看取りの実績はありませんが、重度化した場合は医師の判断により対応されています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回社内で消防署に依頼し、職員が普通救命講習をうけている。また急変時や事故発生時には、速やかに適切な対応ができるように定期的に訓練や研修を行っている		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルを全職員が読み合わせし、避難方法を身につけ、訓練も定期的に開催している。また、訓練には運営推進会議で提案し地域の方にも参加していただき、非常口から避難場所への誘導や見守り等をしていただいている。近くに大きな河川もあり、最近の気象の変化には特に気を配りテレビなどからも情報を収集している。	訓練では地域の方がそれぞれ役割分担しながら協力されています。冬季設定の訓練も実施されており、食料、飲料水も備蓄されています。	二次避難場所の確保及び、非常口として使用可能な場所の整備、現状の非常口を使用した際に不安なく安全に通行できる避難経路の整備に工夫されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、ご本人の社会的背景や家庭状況を踏まえご家族と相談の上、ご本人の能力に応じた言葉かけや対応を行うようにしている。記録等は施錠できるところに保管している。	利用者一人ひとりの癖や状態を把握し、利用者本位の対応をされています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれが自己決定ができるよう、言葉遣いや接しかたを考え、能力に合わせた個別の表現方法での関わりを多く持てるように努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合やペースで進めて行くことがないように職員間で協力しながら、利用者様のペースに合わせられるよう努めている。また個人の希望も取り入れた暮らしをしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にも協力をいただき衣類などの準備をお願いしている。行きつけの理容院に行ったり床屋の訪問もある。また、外出の際は楽しんでいただけるよう身だしなみを整える声かけや支援をし配慮している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事準備から片付けまで行っている。日ごろの会話や摂取状況から好みを知り、食事に取り入れる工夫をしている。	台所仕事を積極的に手伝ってくださる利用者もおられ、野菜の収穫やいただきものの野菜の調理に持てる力が発揮されています。土地のおやつ作りを一緒に行い、昔の生活が思い出せるよう楽しみながらできることを工夫されています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の把握し、一日を通して必要量が摂取できるように取り組みをしている。主治医から検査データにより指導をうけて、バランスのよい食事が提供できるよう工夫している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝時にご本人の状態に合わせた声かけをし、歯磨きや義歯洗浄の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてそれぞれのパターンを確認し、できるだけ失禁しないよう声かけや誘導をしている。また羞恥心やプライバシーにも配慮した援助を心がけている。	チェック表で個々のパターンを把握されており、時間や態度を見ながらトイレでの排泄を支援されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの食事摂取量、排泄、活動状況をチェックし、食事、水分量、運動など自然排便を促す工夫をしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間も含めて毎日入浴可能である。その日の健康状態を確認しながら楽しんでいただいている。また安全に入浴していただけるようシャワーキャリー、浴槽台、浴槽手すりを設置し介助、見守りをしている。必要時は2人で介助するなど、その方に必要な支援を行っている	一番風呂や好みの湯温等、希望や体調、状態に応じて安全に入浴できるように支援されています。希望があれば夜間入浴にも応じられるように準備されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活のペースに合わせ、その時の状況で好きな場所で休息したり快適に眠れるように声かけし、室温・掛け物の調整など支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師と連携をとり服薬支援に努めている。また処方薬についてファイルし、包装や作用など確認して正確な投与を行うとともに副作用の出現について一目でわかるようにしている。また、異常時は医師、薬剤師と連絡をとっている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴・職歴などからひとりひとりの力を活かした役割りや楽しみを考え、職員や他の利用者様と一緒にいえるように支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・畑作業など出来るだけ希望にそって戸外に出る機会を作ったり、子供が好きな方には外での子供達の登下校の見守りやふれあえる機会を提供している。また家族との外出希望がある時はその旨を伝え協力をしていただいている。	個別の希望に応じたり、お弁当を持って出かける等、外気に触れる機会をつくっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはGHで管理している。ご本人やご家族様の理解を得て許容範囲内の金額で自己管理している利用者様もいらっしゃるの見守りなどの支援をしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って、ご家族様への電話の取り次ぎや手紙の投函を支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ家庭的な雰囲気の中で心地良く暮らしていただけるよう配慮している。共有空間にはテレビ・ソファを置き七夕・ひな祭り・クリスマス・名月などを季節を感じ会話が弾むような空間づくりを心がけている。	利用者の動線を考慮してテーブル、ソファの設置位置を工夫されています。仏壇が置かれた畳スペースもあり、家庭的な生活空間となるよう配慮されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	オープンスペースではあるが、ソファや椅子を配置し自由にくつろげるようにしている。また、ご利用者様同士の関係性や状態に応じた家具の配置など、自分の居場所として安心していただけるような環境作りを心がけている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には住み慣れた環境を目指し、できるだけ自宅で使いたれた食器・家具などを持ってきていただけるように説明している。	畳の上に布団を敷いている方は、湿気防止のすのこを使用されています。家族の協力を得ながら排泄用品の置き場所を工夫されたり、間取りを活かした生活環境をつくっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の残存能力を最大に活かして生活できるよう、必要に応じて手すり・浴槽台・椅子等を提供している。		